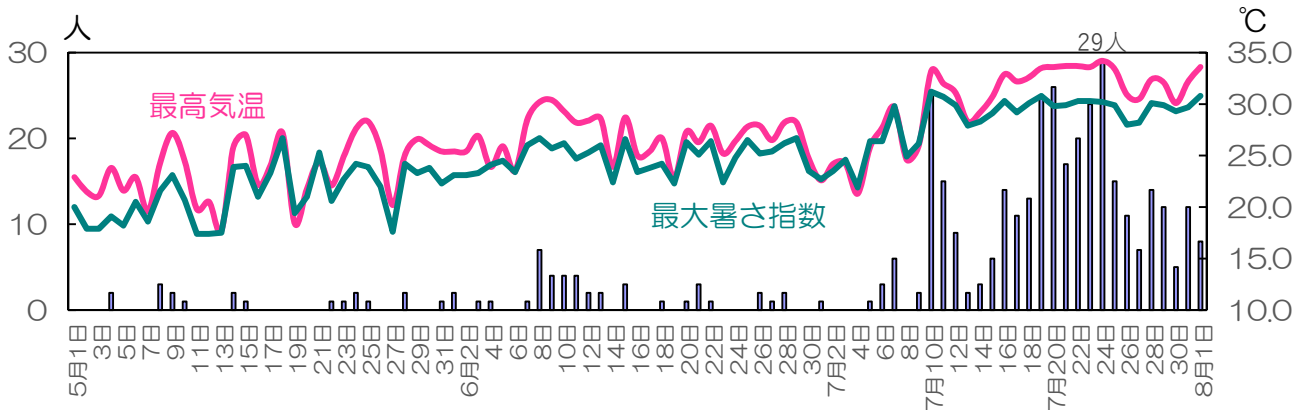


熱中症情報

<搬送数>

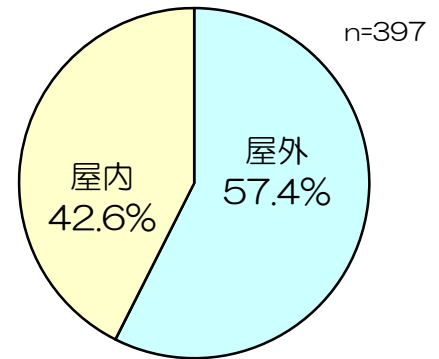
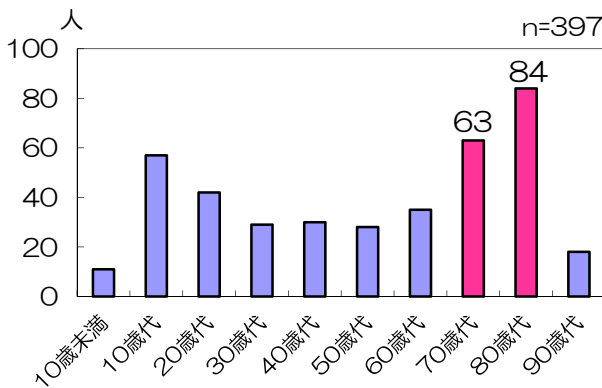
令和3年5月1日～8月1日までの搬送数（消防局データを使用）は、計397人（5月19人、6月42人、7月328人、8月8人）でした。7月はじめは搬送数が少なめでしたが、7月16日以降、最高気温が32℃を超え、搬送数も増加傾向です。7月24日は、最高気温が34.2℃で、搬送数も多く29人でした。しばらくは暑い日が続きますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



暑さ指数とは? 人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が84人(21.2%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外57.4%、屋内42.6%で、次が70歳代で63人(15.9%)でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度> 軽症59.4%、中等症36.5%、重症3.0%、重篤1.0%でした。高齢者(65歳以上)の中等症以上の割合が56.7%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

